

中国語の視覚動詞に見られる諸相

— 「見」、「看到」、「看见」を对象として —

成戸 浩嗣

キーワード

- (1) 事実・価値判断 (fact, value judgement)
- (2) 書き言葉的・話し言葉的 (literary, colloquial)
- (3) 動作の方向性 (attitudes to 'seeing')
- (4) 語義の分化 (divergence of meanings)
- (5) 状態性 (duration of seeing)

0. はじめに

中国語の視覚動詞「見」の基本義については、劉月華等 1983 の“‘见’的基本意义是“看而有结果——看到”的意思”のように「看到」によって説明しようとするものや、『現代汉语八百词』のように「看见」によって説明しようとするものが見られる¹⁾。これは、「見」という動詞が、客体を目でとらえたことをその意義範疇に含んでいる点において「看到」、「看见」と共通しているためであると考えられる。しかし、客体映像の把握段階がそれ自身に内包されている「見」と、結果補語によって表現されている「看到」、「看见」との間には、様々な用法上の相違が存在する。「看到」、「看见」間に見られる相違については、成戸 2001²⁾において考察を行なった。これに加え、「見」と「看到」、「看见」との間に見られる相違について考察することは、現代中国語における代表的な視覚動詞「看」、「見」の使用条件や、視覚動詞に後置される「-到」、「-见」の性格について、従来よりも一層明確に記述することにつながる。

本稿は、「見」、「看到」、「看见」が、具象物を表わす名詞的成分や、具体的なコトガラを表わす成分を客体とする表現を対象に、それぞれの形式が使用される場合に見られる各種の制約や支持について考察することを目的とする。

1. 基本的な相違

本章においては、「見る」動作を表わす場合に見られる「見」、「看到」、「看见」の基本的な相

違について考察する。

1. 1 事実と価値判断

「見」という動詞は、「動詞+結果補語」の形式をとる「看到」、「看见」とは異なり、動作の過程と結果とが形式上区別されていない。このことは、「看到」、「看见」の場合には、例えば

(1) 我看了, 但是没看到。

(2) 我看了, 但是没看见。

のように「見ようとする」動作と「見えた」結果とを別々に表現することができるのに対し、

* (3) 我见了, 但是没见到。

が成立しないことから明白である。「見」の場合、動作自身の実現と客体映像の把握(=結果)は同時であり、結果は「見」自身に内包されている。すなわち、「見」は過程よりも結果が問題となる動詞であり、「看」とは異なって時間的な幅をもたない動作を表わす。このため、進行・持続のアスペクト形式である「正在」、「-着(zhe)」とは共起しない³⁾。過程よりも結果に比重が置かれる「見」は、「見た」経験を述べるのに適しており、以下のような場合には「看」よりも「見」を用いる方が better とされる。

(4) 我没见过大海。

(5) 象这样的大江, 我从来也没见过。

(6) 牛犊, 我这个城市姑娘过去连见都没见过。

(4)~(5)はいずれも「看到」を用いた場合に比べると表現の整合性が高く、(6)は「見」を「看到」に置き換えると不自然とされる。経験した(or しなかった)動作は、発話時においては確定したコトガラである。「见过(没见过)」について言えば、「見たことがある(見たことがない)」は、発話時においては事実として確定しており、「見ようとする」動作の過程が問題となることはない。

一方、「看到过」は「见过」のように「見たことがある」という事実を表わすだけでなく、「見たいと思っていたモノ」、あるいは「見るに値するモノ」を見たという話者の意図、すなわち客体に対する話者の肯定的価値判断を含意する⁴⁾。例えば、(4)、(5)はそれぞれ、「私は海を見たことがない」、「こんなに大きな川を私はこれまで見たことがない」という事実を述べた表現であるのに対し、

(4)' 我没看到过大海。

(5)' 象这样的大江, 我从来也没看到过。

はそれぞれ、例えば「海というものを見てみたいが、いまだに見たことがない」、「思いもかけずこんなに大きな川を見ることができた」のようなニュアンスが感じられ、「見たことがない」という事実を表わすだけでなく、「見ること」に対する話者の肯定的価値判断をも含んでいる。また、(4)'、(5)' は(4)、(5)に比べ、話し言葉的な表現としての性格が強いとされる。

(6)は、「连见都没见过(見たことすらない)」のカタチをとり、「見たことがない」という事実を強めた形式となっている。このため、「看到」を用いた

(6)'牛犊, 我这个城市姑娘过去连看都没看到过。

は、例えば

(7)这么大的牛犊, 我这个城市姑娘过去连看都没看到过。

のような、客体に対してより多くの情報価値が置かれた表現に比べ、整合性の点で劣るとされる。

(7)においては、「这么大的」の部分が、一般の「牛犊」とは比べ物にならないほど大きいことに対する話者の驚き、すなわち肯定的価値判断を含んでいるため、(6)'の場合よりもコトガラにおける「牛犊」の情報価値は高いと考えられる。(4)', (5)'と同様に、(7)も「看到」が用いられていることによって話し言葉的な表現となっている。

(6)と同様に、

(8)“好了, 好了!” 孙悟空打断老猴的话说: “可惜就是没有茶叶!”

“茶叶?” 老猴眨巴眨巴眼睛问, “大王, 茶是什么样儿的? 怎么我们见也没见过?”

(茶酒 p. 82)

も、「见也没见过」のカタチで事実を強めた表現となっている。(8)の「怎么我们见也没见过?」においては「(茶の葉を)見たことがないのはなぜか」が述べられており、「茶」に対して「老猴」が関心をもっているか否かは問題とされておらず、「茶」に対して何らの価値判断もなされていない。このため、(8)は「見」を「看到」に置き換えて

? (8)' “好了, 好了!” 孙悟空打断老猴的话说: “可惜就是没有茶叶!”

“茶叶?” 老猴眨巴眨巴眼睛问, “大王, 茶是什么样儿的? 怎么我们看也没看到过?” とすると不自然な表現とされる。

前述したように、「見」は過程よりも結果が問題となる動詞である。このため、経験を表わす「-过」とは共起可能であるが、完了を表わす「-过」とは共起し得ない。そのような例として黄 2001p. 165⁹⁾は、「あなたが送ってくれた写真はもう見ました」に対応する中国語の表現

(9)你寄给我的相片儿, 我已看过。 * (9)'你寄给我的相片儿, 我已见过。

を挙げている。「見る」という動作の完了は「见过」によって表現することができないため、(9)'は非文とされる。黄はさらに、「知らないでしょ! あなたの昔の写真見たことあるのよ」に対応する

(10)你不知道吧! 我已看过你小时候的相片儿。

(10)'你不知道吧! 我已见过你小时候的相片儿。

においては、「你小时候的相片儿」は「本人が知らない小さいころの写真」という、対象認識に困難性がともなう非日常的なモノであるため、動作そのものよりも、視覚的对象認識に基づいた経験に焦点のある表現となっているとしている。黄の記述によれば、「看」に対しては、(9)、(10)のように、完了の「-过」、経験の「-过」のいずれを附加することも可能であるのに対し、「見」に対しては経験の「-过」は附加し得るが、完了の「-过」は附加し得ないということとなる。

「看过」とは異なり、「看到过」における「-过」は、経験を表わすことはできるが、動作の完了を表わすことはできない。例えば(9)、(10)の「看」に「-到」を附加した

(9)“你寄给我的相片儿, 我已看到过。”

(10)“你不知道吧! 我已看到过你小时候的相片儿。”

における、「-过」は、いずれも経験を表わす成分である。これは、「見えた」という実現段階までを表わす「看到」が、結果の実現を見ない段階における動作自身の完了アスペクト形式とは相容れない点において「見」と共通しているためと考えられる。但し、(10)'、(10)"の両者を比較すると、「看到过」を用いた(10)"の方が、「你小时候的相片儿」に対する「我」の関心が強く感じられる、すなわち、「以前から見たいと思っていた写真を目にした」あるいは「偶然にも興味深い写真を目にした」というニュアンスが感じられるとされ、「写真を見た」ことに対する話者の肯定的価値判断を含んだ表現となっている。

1. 2 書き言葉的な「見」、話し言葉的な「看到」、「看见」

前節で述べたように、「看到」は、客体映像をとらえることに対する話者の肯定的価値判断を含んでいる点において「見」とは異なる。話者の肯定的価値判断とは、例えば、「見たい(or 見るに値する)モノを見た」と判断することである。従って、以下のように「あるモノを見つけた」ことを表わす場合には「見」ではなく「看到」が用いられる。

(11)他看到了桌子上的黑面包, 马上就拿了过来。

(11)においては、あらかじめ欲しいと思っていたにせよ、偶然に目にしたにせよ、「桌子上的黑面包」を目にした時点で「他」はそれを欲しいと思手にしたのであり、「黑面包」に対して肯定的な価値判断がなされたことは後件の内容から明白である。(11)の前件は、以下のように単独でも一つの完結した表現として成立する。

(11)'他看到了桌子上的黑面包。

この場合においても、(11)の場合と同様に、「見つけた」のような肯定的価値判断がなされるとされる。これに対し、ただ単に見たことを表わす表現としての

* (12)他见了桌子上的黑面包。

は成立せず、

(13)他看见了桌子上的黑面包。

としなければならない。(13)は、「他」が「黑面包」を目にした事実を客観的に描写する表現であるため、これに適切な後件を続けるのであれば、例えば

(13)'他看见了桌子上的黑面包, 那个面包都发了霉。

のような、目にした情景について詳しく述べる表現とするのがふさわしい⁹⁾。また、(12)が非文とされるのに対し、

(12)'他见了桌子上的黑面包, 马上就拿过来咬了一口。

は自然な表現として成立する。(12)'においては、「黑面包」を目にしたことに対する「他」の

反応としての動作が後件で述べられているが、「見」は単に「目にした」ことを表わしており、「看到」のような肯定的価値判断を含んではいない。「見」を「看到」に置き換えると、「見つけた」ことを表わす話し言葉的な表現となる。また、(12)'、(13)'の前件は、いずれも目にした事実を客観的に表わしている点において、(11)、(11)'のような「看到」の表現との間に相違点を有する。さらに、「看见」を用いた(13)は単独で成立するのに対し、「見」を用いた(12)は単独では成立せず、(12)'のように後件を続けなければならないことから、「見」は、主体の反応を引き起こす原因となる客観的事実を表わす成分であることが理解できよう。このことは、「見」の表現が小説などにおいて、登場人物があるモノを目にしたことを描写する場合にしばしば用いられることとも符合する⁷⁾。そのような例としては、例えば

(14) 第二天，老汉非要走，崔大爷也不挽留，给他打上个小红布包，把他送出了大门。回到儿子家后，老汉照着崔大爷说的话办了。小孩子见了那东西，也不辨真假，果然回家就跟大人说了：“啊呀，我爷爷有好多好多银子做的元宝呢！”（民间 p. 51）

が挙げられる。(14)の下線部は、「小孩子」があるモノを目にし、それに反応した様子を第三者的な視点から描写した書き言葉的な表現である。この場合に「看到」、「看见」を用いると、表現の整合性が低くなるとされる。(14)の下線部に「看到」、「看见」を用いるのであれば、例えば「小孩子看到(看见)了那东西，也不知道是真的还是假的，就回家跟大人说了」のように、話し言葉的な表現に改めなければならない。従って、「見」、「看见」、「看到」はそれぞれ、

①「見」～目にした事実を客観的に述べる書き言葉的な表現形式

②「看见」～目にした事実を客観的に述べる話し言葉的な表現形式

③「看到」～目にした事実と、その事実に対する肯定的価値判断を述べる話し言葉的な表現形式であるといえることができる。

前述したように、「あるモノを見つけた」というコトガラの場合、ただ単に客体を「見た」のではなく、話者あるいは主体による肯定的価値判断がなされている。また、「偶然に見つけた」のではなく、「探して見つけた」場合には、主体の意志的な動作であることは明白である。そのような場合の例としては、

(15) 她用手电筒照着它，凝视着上面的粒粒细尘。俺有点儿紧张，有点儿失望。她没有看到丝毫的夜的痕迹。（青年 p. 116）

が挙げられる。(15)においては、「她」が懐中電灯で照らしながら何かを探しつつ、結局何も見つからなかったことが表現されており、「她」の動作が一貫して有意志であるため、「没有看到」のカタチで、目当てとなるモノが見つからなかったことが表現されている。また、

(16) 参观鲁迅小时候常去玩的“百草园”时，看到一种树枝打着结的树。老人告诉我：“这不是人打的结，是自然长成这样的。”真是不可思议的植物啊。（アクセス p. 58）

においては、「参观」という意志的な行為を行なっている最中に偶然「一种树枝打着结的树」を見つけたことが述べられている。(15)の場合に比べ、「看到」が意志的な動作であると判断する根拠には乏しい。しかし、「真是不可思议的植物啊」が存在することによって、発話時において

話者の「一种树枝打着结的树」に対する肯定的価値判断がなされていることは明白であり、この点においては(15)と共通している。客体に対する価値判断を含んだ表現は、それを含まない表現に比べ、表現における客体の情報価値が高く、「見たかどうか」よりも「何を見たか(or 見なかったか)」に比重が置かれているということが出来る⁹⁾。このように、(15)、(16)においては、客体に表現の比重が置かれているため、「看到」が選択されているのである。意志的な視覚動作を表わす(15)の「看到」は、「見」、「看见」のいずれに置き換えることもできない。一方、意志性の有無が明確ではない(16)の場合には、「看到」を「看见」に置き換えることが可能であるが、「看到」を用いる方が better であるとされ、書き言葉的な成分である「見」を用いることはできない。

このように、客体を目でとらえることについての価値判断を含んだ「看到」の表現は、有意志・無意志いずれの動作を表わす場合に用いることも可能である。

2. 動作の方向性について

本章においては、動作の空間的・時間的方向性という点から「見」、「看到」、「看见」の相違について考察をすすめる。

2. 1 動作の空間的な方向性

「看到」における「-到」は、視線の移動先としての空間的な到達点(トコロ)を示すことがある。例えば

(17) 黑后生把鲁妹从脚看到头，又点点头说：“对了，对了！我看你这么苗条的身材，纤巧的小手，想必有一手描龙绣凤好针线。走，跟我绣锦被去。”(西湖 p. 9)

においては、「黑后生」の意志によって「看」という動作が行なわれ、視線が「鲁妹」の脚の先から頭のとっぺんにまで及んだことが述べられており、「-到」は、起点を示す「从」と呼応して「看」の空間的な到達点を示している。従って、「看到头」における「头」は、客体というよりは、「看」という動作がいきついたところとしての性格が強い。このような場合の「-到」においては、動作の実現段階(=“見えた”という結果)を表わす働きは希薄であると考えられる。

一方、例えば

(18) 到了文具柜前，我想给她买支好钢笔，她说：“妈妈早给买了。”

看到半导体收音机，我想，这作为礼物最合适了。(《永远是春天》谿容 p. 57)

(19) 姑娘泪珠直流，她来到茶树旁边，看到嫩绿的茶叶，心里想：这些茶叶是用阿祥的鲜血滋润的，是我口含着长成的，我采几片叶子给阿祥泡水喝，也表一表我的心意吧。(茶酒 p. 90)

の場合には、(17)のように動作の起点が明示されておらず、「-到」によって示されるのは主として「動作の実現段階」という抽象的概念である⁹⁾。但し、このような場合においても、空間的な到達点を表わす「-到」の働きは完全に消失するわけではない¹⁰⁾。(18)においては、「我」が「她」

にプレゼントを買ってあげるつもりで店の中をあちこち歩き回り、やがて「半导体收音机」を見つけたことが述べられている。移動しながら、「我」の視線は店の中のさまざまな品物を経て、やがて「半导体收音机」に到達したのである。(19)も同様に、「姑娘」が「茶树旁边」に移動した結果、その視線が「嫩绿的茶叶」をとらえたという内容である。(18)、(19)のいずれにおいても、主体が空間的に移動した結果として視線の先にある客体をとらえているため、「-到」によって示される「半导体收音机」、「嫩绿的茶叶」は、空間的な到達点としての性格を完全には失っていないといえることができる。このように、「看到」に後置される名詞的成分が空間的到達点(トコロ)、客体(モノ)のいずれであるかについては、相対的に判断せざるを得ない側面がある。このため、「-到」についても、「視線の到達点としてのトコロ」、「“看”という動作の実現段階」のいずれを指す働きが中心となっているか、という相対的な判断をせざるを得ない。このような見方をすれば、(17)の「头」は空間的な到達点としての性格が強いのに比べ、(18)、(19)の「半导体收音机」、「嫩绿的茶叶」は客体としての性格が強い成分であるということとなる。それと同時に、「-到」の働きにも相違が見られ、(18)、(19)の「-到」は(17)のそれに比べ、「動作の実現段階への到達」という抽象的な概念を表わす性格がより強い。

(18)、(19)とは異なり、以下の表現例の場合には、客体を目でとらえる以前における主体の空間移動はない。

(20) 在蹿动的人头中，她看到了她的小个子丈夫沮丧恐惶的眼。一只兔子闯进她的心房，她晃晃膀子，逃了出去。(青年 p. 119)

(20)は、「在蹿动的人头中」という一定の範囲内を「她」がずっと眺めていたところ、その視線がやがて「她的小个子丈夫沮丧恐惶的眼」をとらえたという内容を表している。「她」自身は移動せず、固定した場所から視線を送っている点で(18)、(19)とは異なるが、(20)における「她」の視線は、「在蹿动的人头中」という比較的広い視野を見渡している段階から、一定の時間を経て、やがて客体である「眼」に到達したのである。(20)が表わすコトガラにおいては、主体自身の空間的な移動はないが、主体がより広い視野からその視線を絞り込んでいき、やがて客体に到達したという点では(18)、(19)の場合と同様であり、主体から客体に向けて単方向的に視線を及ぼす動作を表わしている点で(18)～(20)は共通している。このような場合には「见」を用いることはできず、(18)～(20)の「看到」を「见」に置き換えるといずれも非文とされる。

「见」が用いられるのは、例えば以下のように、客体が主体の目に自然に入ってきたことを表わす場合である。

(21) 哪知来得不巧，这时清明、谷雨已过，武夷山那山坡上、沟垅里溪边上的头春茶早就采下山了。可是，寒秀堂见了武夷的奇峰峻岭，山光水色，兴致还是浓极了，满心高兴地欣赏起那满山遍岭姿态万千的奇种茶来。

他爬过一道又一道峰，看到了九龙窠半山腰上驰名天下的大红袍。(茶酒 p. 168)

(21)における実線部は書き言葉的な色彩の強い部分、波線部は話し言葉的な色彩の強い部分であり、全体としては話し言葉・書き言葉双方の要素が入り混じっている。「见了」の後ろには

「奇峰峻岭, 山光水色」という書き言葉的な成分が客体として続いている。さらに、「奇峰峻岭, 山光水色」という景色は「寒秀堂」の目に自然に入ってきたものであり、客体から主体に向けての単方向性が認められる¹⁰⁾。これに対し、「看到了」の前には話し言葉的な成分である「一道又一道峰」があるのに加え、「他」がいくつもの山を越えて移動した後、ついに「大红袍」という珍しい茶の木を見つけたことが述べられており、客体に対する単方向性が存在するため、「看到了」を「见了」に置き換えることはできない。このように、連続した一つの文章においても、書き手の表現意図やコトガラの内容によって「見」、「看到」が使い分けられるのである。

以上のように、「看到」は客体に対する空間的単方向性を有しており、この特徴は、目にした事実に対して肯定的価値判断がなされることや、表現の比重が客体に置かれることと表裏一体をなしている。「看到」の表現に見られるこのような特徴は、視覚により客体をとらえようとする意志的な動作を表わす「看」と、動作の到達点を示す「-到」の働きによって、主体から客体に対して動作が及ぶというニュアンスが強くなること、すなわち表現の他動性が高くなることに起因すると考えられる。

2. 2 動作の時間的な方向性

1. 2 で述べたように、話者の判断を加えずに「あるモノを目にする」ことを表現する場合に「見」を用いると書き言葉的な表現となり、「看见」を用いると話し言葉的な表現となる。例えば

(22) 小时候, 从我的房间可以看见院子里的樱花树。

は「子供の頃、私の部屋からは中庭の桜の木が見えた」というコトガラを、事実として客観的に述べた話し言葉的な表現であるとされる。これに対し、

* (22)' 小时候, 从我的房间可以见院子里的樱花树。

においては、表現全体が話し言葉的であるにもかかわらず、書き言葉的な「見」が用いられていることが非文とされる一因である。(22)に対し、

(22)" 小时候, 从我的房间可以看到院子里的樱花树。

は、「樱花树」に表現の比重が置かれ、客体への単方向性が見られる。この方向性と動作の起点を表わす「从・N」の方向性が矛盾しないため、(22)よりも整合性が高いとされる。(22)と同様に、

(23) 从火车的车窗里看见了海, 海上有两条船。

の場合も、「看见」を「见」に置き換えた

* (23)' 从火车的车窗里见了海, 海上有两条船。

は非文とされる。(22)', (23)'においては、客体に向かう視覚動作の起点を表わす「从・N」と、客体の姿が自然に目に入ってくることを表わす「见」との間に方向性の上で矛盾が生じていることが、非文とされる主な要因となっている。これに対し「看见」を用いた(22)、(23)が成立するのは、「動詞+結果補語」の形式をとる「看见」が「過程+結果」を表わすため、視線の方向性もおのずと客体に向けての単方向的なものとなり、方向性において「从・N」とは矛盾しな

いことによると考えられる。客体に視線を向けようとする動作「看」と、「看」から意志性を失わせて無意志動詞にする働きを有する「-見」との組み合わせである「看见」は、客体への単方向動作を表わす働きを完全に失っているわけではないのである。一方、

(24) 去外国旅游仅半年, 归来后看到富士山时, 不禁吃了一惊, 多么美丽的山峰!

は「归来后」という主体移動を表わす成分を含んでおり、移動先にある「富士山」への単方向性が強いため、「看到」が用いられている。「看到」を「見」に置き換える非文とされる。これに対し、

(24)' 去外国旅游仅半年, 归来后看见富士山时, 不禁吃了一惊, 多么美丽的山峰!

は、「富士山を見た」という事実を表わす自然な表現として成立するが、無意志の動作を表わす「看见」は客体への方向性が「看到」ほどには強くない、表現の整合性は(24)の方がまさっているといわれる。

前述したように、「看见」は無意志の動作を表わす表現形式であるものの¹²⁾、動作の単方向性を失ってしまうわけではない。「看见」は、意志によらない視覚動作を表わす点において「見」と共通している一方、「過程+結果」のカタチで動作を表現する点においては「看到」と共通している。動作の過程と結果は、時間的な終点への単方向性を有しているため、「看见」、「看到」は、時間的な単方向性をもった動作を表わす点において、「見」との間に相違点を有しているといえる¹³⁾。従って、「看见」は、「時間的な単方向性を有する無意志の動作」を表わす形式であり、その方向性の強さにおいて、空間的・時間的な単方向性をあわせもつ「看到」に次ぐ形式であるといえることができる。

以上のことから、「見る」動作を表わす場合に見られる「見」、「看见」、「看到」の特徴は、

- ①「見」～無意志の動作を表わす。客体から主体への空間的単方向性を有する。
- ②「看见」～無意志の動作を表わす。結果への時間的単方向性を有する。
- ③「看到」～有意志・無意志いずれの動作をも表わす。客体への空間的単方向性、結果への時間的単方向性を有する。

のようにまとめることができよう。「看见」は時間的単方向性を含んでいるため、主体が移動した結果としてあるモノを目にしたことを表わす(24)'のような表現に用いられても問題は生じない。空間的終点への単方向性と時間的終点へのそれとは矛盾しないためである。一方、

* (24)" 去外国旅游仅半年, 归来后见富士山时, 不禁吃了一惊, 多么美丽的山峰!

が非文とされるのは、「見」が書き言葉的な成分であるため、後続の「不禁吃了一惊, 多么美丽的山峰!」という話し言葉的な成分とは合わないのに加え、客体への空間的方向性・結果への時間的方向性のいずれをも含まないことに起因すると考えられる。

3. 語義の分化と表現形式

本章では、「見」、「看到」、「看见」という形式上の相違と語彙的意味との関連について考察する。

3. 1 「見る」と「読む」

第1章、第2章では、「見る」動作を表わす場合における「見」、「看到」、「看见」の相違についての考察をすすめてきたが、3つの形式の間には、さらに以下のような語彙的意味の相違が生じる場合がある。例えば、純然たる書き言葉的な表現である

(25) 见此信，泣不止。

における「见此信」は、「手紙を読んだ」、「手紙を見た」のいずれの意味にも解されるのに対し、話し言葉的な表現としての

(25)' 看到这信，她不由得哭了起来。

における「看到这信」は、「手紙を読んだ」の意味に、同じく話し言葉的な表現である

?(25)" 看见这信，她不由得哭了起来。

における「看见这信」は、不自然ながらも「手紙を見た」の意味に解される。(25)の「見」の場合には、「読む」、「見る」という異なる動作が形式上区別されていないのに対し、(25)'¹⁴、(25)"¹⁵の「看到」、「看见」においては、二つの異なる動作が結果補語「-到、-見」によって区別されている。「読む」、「見る」を比較すると、前者は、客体の姿(=文字)を表面的にとらえるにとどまらず、文字によって表わされた内容を理解する動作であるのに対し、後者は客体の姿を表面的にとらえる動作であるという相違が見られる。「読む」の方が、客体に対して動作が及ぶというニュアンスが強く、客体への動作の単方向性がより強いと考えられる¹⁴。上記の表現例において「看到」が「読む」を、「看见」が「見る」を表わすのは、客体への「看」の方向性が、動作の到達点を示す「-到」が後置された場合には強められ、他動詞を自動詞化する働きを有する「-見」が後置された場合には弱められることに起因すると考えられる¹⁵。

このように、「看到」、「看见」は、「過程+結果」のカタチで動作を分析的にとらえる形式であるため、(25)'¹⁴、(25)"¹⁵のように異なる動作を区別する効果を生じる場合が存在する。これに対し、純然たる書き言葉に用いられる場合の「見」は、形式上は非分析的であり、意味上は未分化であるといえることができる。

(25)の場合とは異なり、以下の表現例における「見」は「見る」動作を表わしている。

(26) 唐使心中大喜，打开边关大门，迎接回纥使臣。

只听回纥使臣说道：“今年想与天朝上国换一本种茶制茶的书，名叫《茶经》。

唐使没有见过这本书，又不好言明，只好顺水推舟地问道：“贵国打算用多少马匹换我们这本书呢？”(茶酒 p.105)

(26)は小説における描写表現であり、書き言葉的な性格を帯びている。文章全体の内容から、

「唐使」が「茶経」という書物の存在すら知らなかったことが明白であり、「唐使没有见过这本书」の部分、「唐の使いはその本(茶経)を目にしたことがない」という内容を表わしている。(25)の場合とは異なり「見」が「読む」を表わす可能性はなく、「見」の語義は、文脈によって「見る」に特定されている。「読む」を表わすためには、「看」を用いて「唐使没有看过这本书」としなければならない。言うまでもなく、現代中国語においては、「看书」、「看报纸」のような「看」+名詞形式における「看」と名詞との意味上の関係が基本となって「看」の語義が「読む」に特定されるためである。但し、(25)の「看到」が「読む」動作を表わすのは、意志的な動作を表わす「看」と「这信」との意味上の関係のみによるものではない。すなわち、(25)のような「看见」の表現が「見る」動作を表わすことを考え合わせると、(25)においては、「看」、「这信」のような「動詞+目的語」の意味上の関係だけではなく、「-到」も動作の概念を「読む」に確定する要因となっていると考えるのが妥当である。「-到」が附加されることによって動作の客体への単方向性が強まるため、客体映像をとらえるだけでなく内容を理解すること、すなわち「読む」動作を表わすこととなるのである¹⁶⁾。

さらに、「看到」は以下のような点において、日本語の「読む」とも異なる。例えば

(27) 昨天我看到的这份杂志上说，现在以茶叶为出口商品的有二十多个国家。

における「看到」は、「読む」動作を表わすと同時に、「見つける」というニュアンスを帯びているとされる。(27)においては、後件の内容から「看到」が「読む」動作を表わしているのは明白である。但し、「読む」ことを表わすにとどまらず、例えば「いつも雑誌などでお茶について調べていたところ、昨日ある雑誌でその記事を見つけた」のような前提の存在が感じられるとされる。すなわち、「看到」は「探して見つけ、そして読んだ」という事実を前提として用いられているということである。このことは、換言すれば、(27)の「看到」は「読む」のような内容理解を伴う動作を表わすと同時に、「見つける」のような動作の目的達成をも含意しているということである。さらに以下の表現例を見てみよう。

(28) 我装作很有兴趣的样子，叫他把填的表拿来。他真的拿来，上面写着：我自愿脱离共产党。

一看到这个我气坏了，你这个叛徒！（青年 p. 303）

(29) 当他拿起第六份档案，看到陆文婷这个名字时，他感到有点儿累，也并不期待还能出现奇迹。（《人到中年》 中国现代 p. 103）

(28)の「一看到这个我气坏了」は、「見」を用いるのであれば「见此言，不由大怒」という純然たる書き言葉的な表現となるが、上記のような文脈では不適切である。同様に、(29)も話し言葉的な文体で書かれているため「看到」が用いられている。(28)、(29)における「看到」はいずれも、「読む」動作を表わすと同時に、「見つける」というニュアンスを含んでいる。(28)では、「他」が持って来た「表」に「我自愿脱离共产党」と書かれているのが目にとまったのであり、(29)では、「他」が「第六份档案」を手にしたところ、「陆文婷」の名前が目に飛び込んできたのである。(28)、(29)はいずれも、「近づいてきた客体の映像を主体が見つけ、そして読んだ」という内容を表わしており、(20)の場合と同様に、「看到」は、より広い視野から視線を

絞り込んだ結果として客体をとらえる動作であるため、視線の空間的単方向性は(27)の場合よりも明白であるといえることができる。(28)、(29)の「看到」を「看见」に置き換えると、「読む」の概念は消失し、文字が目に入ったことのみを表わす表現となる。

3. 2 「見る」と「会う」

これまでの考察によって、話し言葉においては、動詞としての語義が未分化である「見」よりは、むしろ「看到」、「看见」の形式を用いて「見る」動作を表現する傾向が存在するということが明白となった。一方、話し言葉における「見」の主要な働きとしては、ヒトを客体として「会う」動作を表わすことが挙げられる。「会う」は、主体・客体間に双方向的な関係が成立する動作である点において、主体から客体への単方向動作である「見る」とは異なる。「見」が「会う」を表わす場合、例えば

(30) 他要件张主任。

のように、発話時において実現していないコトガラを表わす表現に用いることができる。このような場合には、動作の実現段階までを表わす「看到」、「看见」を用いることはできず、以下の表現例はいずれも非文とされる。

* (30)' 他要件看到张主任。

* (30)" 他要件看见张主任。

一方、発話時においてすでに実現しているコトガラを表わす以下の表現においては、「見」は「(妹の姿を見る)」、「(妹に)会う」のいずれにも解される¹⁷⁾。

(31) 这时, 家里人找进洞来, 爹, 娘, 哥哥, 见了妹妹, 高兴得哭了起来。(民间 p. 31)

(31)は小説における場面描写の表現であり、「見」が用いられることにより、第三者的な視点から客観的に「家里人」の動作を述べる効果が生じている。「見」が「見る」の意味にも解されるのは、「家里人找进洞来」という移動を表わす成分が存在することにより「家里人」から「妹妹」への動作の単方向性が生じているためであると考えられる。これに対し、

(31)' 这时, 家里人找进洞来, 爹, 娘, 哥哥, 看到了妹妹, 高兴得哭了起来。

の「看到了妹妹」は、「(見たいと思っていた)妹の姿を見ることができた」あるいは「(会いたいと思っていた)妹に会うことができた」という内容を表わすとされる。(31)'の「看到了」は、「見た、会った」という事実だけではなく、「見たい、会いたい」という「家里人」の願望・目的が実現したことをも表わすことから、事実のみを表わす(31)に比べると表現における「妹妹」の情報価値は高く、動作の単方向性も強いと考えられる。また、

(31)" 这时, 家里人找进洞来, 爹, 娘, 哥哥, 看见了妹妹, 高兴得哭了起来。

における「看见」は「妹の姿を目にした」ことを事実として表わす表現である。(31)"の「看见」は、(31)の「見」、(31)'の「看到」が「見る」、「会う」いずれを表わすことも可能であるのに比べると、語義の点において限定されている。「見」のように主体の反応としての動作を後件として続けることを必要とせず、かつ、客体への方向性が「看到」ほど強くない「看见」を用いた(31)"の整合性は、(31)、(31)'には及ばないとされる。

ところで、荒川 1985p. 12-13¹⁸⁾は、

(32) 八年前我被拉上威虎山，在山上见过他。（原文では以下省略）

の「見」は、私はあいつに“見”したが、相手は自分を知らないというケースであって、これを「会う」と訳すと正確ではなくなるとし、その根拠として、日本語の「会う」は相互確認的である点を挙げている。(4)～(6)に見られるように、「見」は、モノを客体として「見る」動作を表わすことが可能である一方、ヒトを客体とする場合においては、(31)のように「見る」、「会う」いずれの動作にも解されるケースが生じる¹⁹⁾。すなわち、「見」の意義範疇においては、「見る」と「会う」が連続的な関係にある点で、二つの動作を別個の動詞によって表現する日本語の場合とは異なっている。(32)に対し、

(32)' 八年前我被拉上威虎山，在山上看到过他。

は話し言葉的な表現としての色彩がより強いとされる。(32)'は、「(偶然に)彼の姿を見たことがある」、「(偶然に)彼に会ったことがある」のいずれにも解される表現であり、「見た(会った)ことがある」という事実のみを表わす(32)とは異なる。また、

(32)" 八年前我被拉上威虎山，在山上看见过他。

は、「彼の姿を見たことがある」を表わす口語的表現として成立はするものの、表現の整合性という点においては(32)に劣るとされる。これは、1.1 で述べたように、経験を表わす場合には動作の過程は問題とならないため、「見たことがある」という事実を述べるためには「見」を用いる方がよいためと考えられる。また、例えば

(33) 技术员让司机开车。这小子是个舞迷。三十多岁了，还在舞场上厮混。见了好姑娘就缠上。

(青年 p. 238)

における「见了好姑娘」は、「すてきな若い女性を見かけた」だけでなく、その女性とある程度の交流をもったであろうことが前提となっているとされる。(33)の「見」を「看到」に置き換えると、「見」を用いた場合と同様の内容を表わす話し言葉的な表現として成立するが、「看见」に置き換えると不自然とされる。「看见」はヒトの姿を表面的にとらえることを表わすため、(33)のようなコトガラを表わすのには適さないためである。このように、「見」、「看到」の概念はいずれも、「見る」、「会う」双方の領域にまたがっている点において、「看见」との間に相違点を有する。但し、「見」と「看到」を比較すると、客体への単方向性を有する「看到」の方が「見る」を表わす傾向が強い。例えば「昨日駅で王さんを見かけた」に対応する中国語の表現として

(34) 昨天我在车站看到了小王。

は成立するが、

* ? (34)' 昨天我在车站见了小王。

は非文もしくは不自然とされる。「見かける」は、主体が一方向的に客体の姿を目でとらえる動作であり、客体に対する単方向性を備えているため、「見」が有する方向性とは相容れない。(34)'は、「昨日駅で王さんに会った」のような、主体・客体間の双方向的な動作を表わす表現として

であれば成立する。また、(34)は、「見かけた」ことを事実として述べる表現である

(34) “昨天我在车站看见了小王。

よりも客体への方向性が強く、例えば「王さんの姿を求めて探していたところ、昨日駅で見かけた」のような場合に用いることができる。さらに、(34)は「会う」動作を表わす表現として用いることも可能であり、その場合には、「会った」ことに対する「我」の肯定的価値判断を含んだ表現となる。

前述したように客体への単方向的な動作を表わす「看到」は、例えば

(35) 一路上, 我不停地设想即将相逢的情景, 当我兴冲冲而又心神不安地走进家门时, 一眼就看到出来接我的您, 您像孩子一样的高兴, 但我却愣住了: 一个声音嘶哑、头发花白、驼背的老人出现在我面前。(报告 p. 630)

のような、主体が移動した結果として、その移動先にいる人の姿を目にしたという内容を表わすことができる。(35)の「看到」を「看见」に置き換えると、表現の整合性においては「看到」に劣るものの、非文とはされない。これは、「看见」は、客体への空間的な単方向性が「看到」に比べると弱いながら、結果への時間的な単方向性を有している点において「看到」と共通しているためであると考えられる。一方、(35)の「看到」を「见」に置き換えると非文とされるのは、「见」が客体・結果いずれに向けての単方向性も備えていないことと、「我不停地设想即将相逢的情景」が存在することからも明白なように、「我」があらかじめ「您」の姿を目にすることを期待、予測していたこととの間に矛盾が生じているためと考えられる。すなわち、(35)では、偶然ではなく、「我」の意志によって「您」の姿をとらえたのであり、この点においても客体に向けての単方向性が強く認められる。ちなみに、「看见」を用いた場合にはこのような意志性が希薄となり、「見た」事実のみを表わす表現となる。

以上のように、ヒトを客体とする表現に用いられる場合、「看到」は「(ヒトに)会う」、「(ヒトの姿を)見る」のいずれを表わす表現としても用いられるのに対し、「看见」は「(ヒトの姿を)見る」を表わす表現としての性格が強い²⁰⁾。一方、「见」は、日本語において「見る」、「会う」という二つの異なる動詞により表現される概念のいずれをも含んだ動詞であり、語義の上で未分化であるということが出来る。しかし、(30)のような表現が存在することからも明白なように、客体がヒトである場合には、「会う」動作を表わす傾向の方が強いと考えられる。

4. コトガラを客体とする表現について

本章では、「见」、「看到」、「看见」が具体的なコトガラを表わす成分を客体とする場合に見られる相違についての考察を行なう。

4. 1 「见」に見られる状態性

「见」、「看到」の二者は、以下のように、具体的なコトガラを目にすることを表わすのに用

いられる場合がある。

(36) 你见过鲤鱼跳龙门吗？

(36)' 你看到过鲤鱼跳龙门吗？

(36)は書き言葉的、(36)'は話し言葉的な表現であるとされる。いずれも「見たことがある」という経験を表わす自然な表現として成立する。1.1で述べたように、経験を表わす場合には動作の過程が問題とはされないため、特に客体をとりにたてる表現意図がない限り、「見」を用いた(36)の方がより自然である。一方、

* (36)"你看见过鲤鱼跳龙门吗？

には、(36)'のような客体とりにたてる表現意図は込められておらず、「過程+結果」を表わす「看见」と、経験を表わす「-过」との間に矛盾が生じることによって非文とされる。また、

(37) 我见他正在跟小王谈话。

の場合には、「他正在跟小王谈话」という進行表現が客体となっており、「見」は、一種の動態が自然に目に入ってきたことを表わしているといえることができる。1.1で述べたように、「見」自身は時間的な幅をもたない動作であるが、動態を客体とする(37)のような表現においては、動きをともなった情景が持続的に目に入ってくることを表わしているのである。(37)は単独では成立せず、例えば

(37)' 我见他正在跟小王谈话，我就没进去。

のように、情景を目にしたことに対する主体の反応を表わす成分を後件として続けると、自然な表現として成立する。これに対し、

(37)" 我看到他正在跟小王谈话。

は単独で成立可能な表現である。「看到」は、「他正在跟小王谈话」という進行中のコトガラを、発話時点において「我」の側から瞬間的にとらえた動作である点で、「一定の時間持続して目にした」という事実を前提とする(37)の「見」とは異なる。

(37)'と同様に、進行中のコトガラが客体となっている表現例としては、

(38) 兰香见我两眼怔怔地看着他，笑得更甜更腻，身子也与我靠得更紧。（《人啊，人！》p. 6）

(39) 爷爷见我望着信纸直发呆，问我怎么回事？（《永远是春天》 谌容 p. 44）

が挙げられる。(38)、(39)の「我两眼怔怔地看着他」、「我望着信纸直发呆」はいずれも一種の動態を表わす成分であるため、「見」自身も「見える」に近い、状態性を帯びた成分となると考えてさしつかえない。(38)、(39)の「見」を「看到」に置き換えた

(38)' 兰香看到我两眼怔怔地看着他，笑得更甜更腻，身子也与我靠得更紧。

(39)' 爷爷看到我望着信纸直发呆，问我怎么回事？

は、話し言葉的な表現として成立はするものの、(38)、(39)の方が better であるとされる。(38)'、(39)'においては、(37)"の場合と同様に、発話時点における瞬間的な動作として「見る」が表現されている。2.2で述べたように、「看到」は空間的・時間的な単方向性を有する動作であるため、(37)"、(38)'、(39)'のように進行中のコトガラが客体となっている場合においても、「-到」は主体の視線が行きつく空間的到達点を示すと同時に、実現という時間的な到達点をも示

すこととなり、その結果として瞬間的に「見た」ことを表わすと考えられる。(38)'、(39)'よりも(38)、(39)の方が better とされるのは、空間的・時間的な単方向性を有しない「見」が一種の状態としての性格を帯びているため、進行中のコトガラ、すなわち動態を目にすることを表現するのに適しているためと考えられる。このことは、以下のような表現例を見ると一層明白となる。

(40) 正好那时, 看到从后面有人出来。

(40)は、特定の時点を表わす成分「正好那时」を含んでいるため「看到」が用いられている。これに対し、「見」を用いた

* (40)' 正好那时, 见从后面有人出来。

は非文とされる。また、例えば

(41) 扭头见前面走廊拐弯处走来几个穿白衣服的医生。

は、「几个穿白衣服的医生」が歩いて主体に向かって歩いているという進行中の動作を、主体が持続的に目にしていることを表わす表現とされる。(41)の「見」を「看到」に置き換えると非文とされる。「看到」を用いるには、例えば

(41)' 他一扭头, 就看到前面走廊拐弯处走来几个穿白衣服的医生。

のように、特定時点において「見る」ことを表わす表現としなければならない。(41)'における「前面走廊拐弯处走来几个穿白衣服的医生」は、「一扭头」に続いてすぐに目に飛び込んできた瞬間的な映像であり、視線の到達点としての性格が強い。

さらに「看见」を用いた場合も、「看到」と同様に、客体映像を瞬間的にとらえたことを表わす表現として成立する。但し、

(40)" 正好那时, 看见从后面有人出来。

は自然な表現として成立するものの、表現の整合性は(40)に及ばないとされる。(37)"の「看到」を「看见」に置き換えた場合も同様である。これは、空間的・時間的到達点を明示する「看到」の方が、空間的な方向性が希薄であり、かつ空間的・時間的いずれの面における到達点をも表わさない「看见」に比べ、客体映像の把握を時間軸上の点として表現するのにより適しているためと考えられる。

4. 2 動作の方向性と状態性

2.2で述べたように、「見」は客体から主体への空間的方向性を有するため、ある情景が主体の目に自然に入ってきたことを表わす場合にしばしば用いられる。例えば

(42) 傅家杰见来了这么多人, 忙站起来。

においては、「来了这么多人」という情景を目にした「傅家杰」が、それに対して「忙站起来」という反応をしたことが述べられている。「見」が用いられていることにより、「傅家杰」の意志に関わりなく情景が目に入ってきたことが含意される。かつ、「来了这么多人」というコトガラの把握は瞬時になされたのではなく、一定時間を要した可能性があり、例えば「多くの人々

が入ってくる様子を、入ってくる以前から目にしていた」という事実を前提とするような場合に用いられるとされる。一方、「看到」を用いると、例えば「多くの人々が入ってきた様子を突然に目にした」のように、瞬間的に情景をとらえたことを表わす表現となる。上記のような「見」の性格が一層明白となっているのが、以下の表現例である。

(43) 吴掌柜正在酒馆里招呼客人，老远见古井旁边坐着一个人，仔细一瞧，是八年前那个疯老汉，他连忙吩咐人准备美酒好菜，然后，亲自走出酒馆，去请那老汉。疯老汉见吴掌柜来请他，就问道：“姓吴的，这几年生意怎么样啊？”（茶酒 p. 185）

(43)においては、二箇所「見」が用いられている。「老远见古井旁边坐着一个人」における「見」は、古井戸のそばに誰かが坐っている様子を「吴掌柜」が偶然目にしたことを表わし、「疯老汉见吴掌柜来请他」における「見」は、「酒馆」を出て自分の方に向かって来る「吴掌柜」の姿を、「疯老汉」がしばらく見ていたことを前提として用いられている。前者の「見」はヒトが坐っている姿を状態として、後者の「見」は、「吴掌柜」が「疯老汉」に向かって移動して来る姿を動態として、それぞれ持続的に目にしたことを表わしている。(43)の場合と同様に、

(44) “腊梅呀？她的手都裂成口子了。”

我听了没头没脑，就跟着到了女同志们的住处，只见几个人围着腊梅，她低着头坐在炕上，一声不响。见我进去，那些叽叽呱呱说话的人也不言语了。（《永远是春天》 谥容 p. 6）

における「見」も、「我」が「女同志们的住处」に入る様子を「那些叽叽呱呱说话的人」がしばらく目でとらえていたこと、すなわち、部屋に入る前後を含めた動態としてとらえたことを表わすとされる。「見」を「看到」に置き換えた場合には、例えば「看到我进去」あるいは「看到我进去了」のように、「我」が部屋に入る前後のある時点において動作をとらえた表現とするのがふさわしいとされる。さらに、

(45) 也不知走了多久，正德皇帝终于看到了一间茅屋。他二话没说，急匆匆地就跨进了门。屋内有一对白发老人，正围着桌子吃粥。见有人突然闯进屋来，慌忙站起。（美食·上 p. 18）

においては、「正德皇帝が歩いて行きついた先に“一间茅屋”を見つけた」ことが「看到」によって表現される一方、「（“一对白发老人”が家の中で粥を食べていたところ）突然に人が入ってきたのを目にした」ことが「見」によって表現されている。「看到」の客体「一间茅屋」は、コトガラではなく名詞的成分であるものの、「正德皇帝」の視線の最終的な到達点であり、「看到」という動作は時間軸上の点として位置付けられている。これに対し「見」の場合には、「有人突然闯进屋来」という情景が「一对白发老人」の目に突然に入ってきたことが、時間軸上の線として位置付けられており、家の中に人が入って来る前後の様子をしばらく見ていたことを前提として用いられている。従って、「见有人突然闯进屋来，慌忙站起」が表わすコトガラにおいては、「人が入って来たのを目にする」、「あわてて立ち上がる」という二つの動作が時間的に重複して行われた可能性が存在するのに対し、「看到有人突然闯进屋来，慌忙站起」の場合には、「人が入って来たのを目にした」後で「あわてて立ち上がった」という内容となり、二つの動作が時間的に重複することはない。

以上のように、「看到」の表現においては、到達点を示す「-到」の働きによって、視線が客体に到達することが時間軸上の点として位置付けられるのに対し、視線の空間的な終点を有しない「見」には時間的な終点もないため、客体を目でとらえることは時間軸上の線として位置付けられる。また、「看到」が、客体を主体の側から視覚によってとらえる動作であるのに対し、「見」は、目の前の情景を受動的にとらえるという性格が強く、日本語の「見える」に近い状態性の強い成分としての性格を帯びている。

註)

- 1) 刘月华・潘文娣・胡群1983《实用现代汉语语法》外语教学与研究出版社、吕叔湘 主编《现代汉语八百词》商务印书馆 1980。他に《动词用法词典》上海辞书出版社 1987 など。
- 2) 成戸浩嗣 2001「感覚動詞に後置される‘-到、-見’(その2)」『コミュニティ政策学部紀要 第4号』愛知学泉大学コミュニティ政策学部
- 3) 「見」が有するこのような特徴については成戸浩嗣 2004「‘見’に後置される‘-到’について」『平井勝利教授退官記念 中国学・日本語学論文集』p. 308 を参照。
- 4) 「看到」の表現に見られる肯定的価値判断については成戸 2001 前掲書 p. 162-165 を参照。
- 5) 黄利恵子 2001「現代中国語における“見”の多義構造と統語的特徴」『多元文化 創刊号』名古屋大学国際言語文化研究科
- 6) 「看见」の表現が有する描写性については、成戸 2001 前掲書 p. 161-162 を参照。
- 7) 原田寿美子 1997「小説内にみられる“見”“看见”“只见”等の用法について」『中国語学 244号』日本中国語学会は、日本語の小説の中国語訳には、日本語の原文には見られない「目の前で起こっていることを見る」のカタチでコトガラを表わす例がしばしば見られるという現象に着目し、ある状況を説明する場合に、中国語では「(状況を)知覚した」というカタチによって表現する点が日本語とは異なると推測している。
- 8) このような相違は、「看见」、「看到」間に見られる相違の一面でもある。この点については、成戸 2001 前掲書 p. 167-170 を参照。
- 9) 「-到」の概念に見られる抽象性については、成戸 2001 前掲書 p. 171 を参照。
- 10) 同様の例としては、「我的眼睛好极了，能看到远处的那个人。」「远处可以看到流水的尽头。」が挙げられる。これらの表現における「-到」は、動作の実現を表わす働きを中心としながら、到達点(=トコロ)を示す成分としての性格を残しているといえることができる。
- 11) 「見」は、①「(ヒトに)会う」という双方向的な動作、②客体映像が主体に向かって単方向的に入ってくること、③ヒトやモノが「見える」状態、を表わすことができる。①～③はいずれも客体に向けての単方向性を有しない点で共通している。
- 12) この点については、成戸 2001 前掲書 p. 160-165 を参照。
- 13) 「見」が時間的な方向性を有しないことは、例えば「街上不见人影儿」のような存在表現に用いられることから明白である。
- 14) 「看到」、「看见」の相違は、常に(25)′、(25)″のように「読む」、「見る」の相違に対応するとは限らないが、客体へ

- の方向性の強さにおいて「看到」は「看见」にまさっている。この点については、成戸 2001 前掲書 p. 164 を参照。
- 15) 「看到」とは異なり、「见到」の場合には、「-到」が附加されることによって「见」には欠けていた客体への単方向性が備わることとなる。この点については、成戸 2004 前掲書 p. 315 を参照。
 - 16) 内容理解を含意する「看到」の働きについては、成戸 2001 前掲書 p. 158-160 を参照。
 - 17) 「见」よりは「见到」の方が、視覚を用いた“見る”、“見かける”、“目にする”の意味を表わす傾向が強い。この点については、成戸 2004 前掲書 p. 300-303 を参照。
 - 18) 荒川清秀 1985「聞く、見ルに対応する中国語について」『愛知大学外国語研究室報 第9号』愛知大学外国語研究室。
 - 19) 同様の表現例としては、「好像在哪见过你。」「我没见过像他那样日语讲得那么好的中国人。」「见着王二就摇头。」が挙げられる。これらの表現はそれぞれ、肖辉・高克勤 主编《中级日语》武汉大学出版社 1997p. 67、赵福泉 编著《日语语法疑难辨析》上海外语教育出版社 1988p. 267、『岩波中国語辞典』において、「どこかで君を見たようだ」、「中国人であれほど日本語の達者な人を見たことはない」、「王二を見るとしかめつらをする」に対応する中国語の表現とされている。
 - 20) 「昨天我看到他了。」「昨天我看见他了。」を比較した場合も、「看到」は「会う」の意味が、「看见」は「見る、見かける」の意味がそれぞれ強いとされる。この点については成戸 2001 前掲書 p. 167 を参照。

【用例】 具体的な文脈が参考となる表現例の出典については、以下の通り。 ()は略称

张秀春・程景林 编《茶酒的传说》吉林文史出版社 1986 (茶酒)

曹保明 搜集整理《中国民间教子故事》北方妇女儿童出版社 1985 (民间)

《青年佳作》中国青年出版社 1988 (青年)

榎本英雄・王京蒂『アクセス中国・教科書版』朝日出版社 1995(アクセス)

《西湖民间故事》浙江人民出版社 1979 (西湖)

《新时期中篇小说名作丛书 谌容集》海峡文艺出版社 1986 (谌容)

钱谷融・吴宏聪 主编《中国现代文学作品选读・下册(当代部分)》华东师范大学出版社 1987 (中国现代)

《全国优秀报告文学评选获奖作品集 二》人民文学出版社 1981 (报告)

戴厚英《人啊，人！》花城出版社 1980

张紫晨・李秀春《美食佳肴的传说·上》吉林文史出版社 1986 (美食·上)

(2004. 9. 30)